

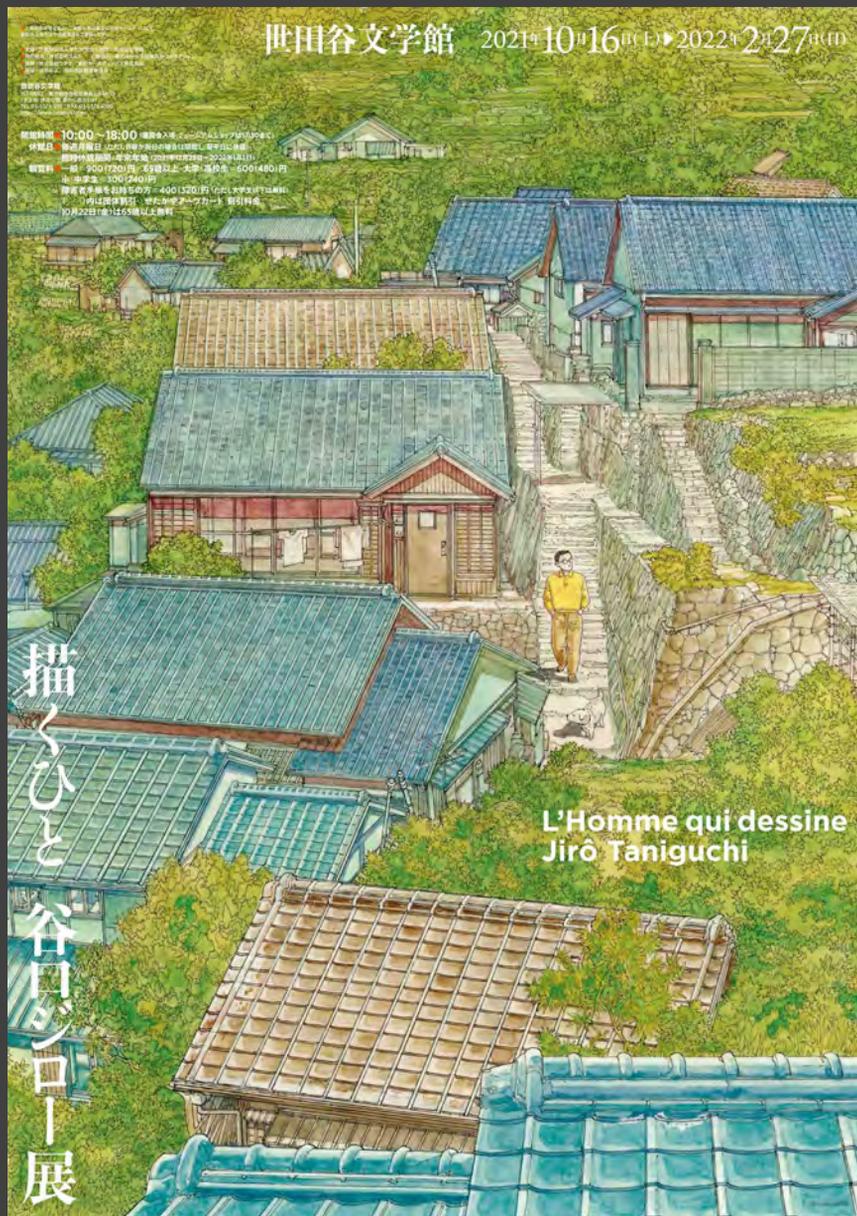
PRESS RELEASE SETABUN

描くひと 谷口ジロー展

2021/9/8 世田谷文学館プレスリリース

描くひと 谷口ジロー展

2021年10月16日 [土] ~2022年2月27日 [日]



メインビジュアル

広報に関するお問合せ：世田谷文学館学芸部 佐野、宮崎

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10 TEL: 03-5374-9111 / FAX: 03-5374-9120

概要 描くひと 谷口ジロー展

日本はもとより海外でも多くの読者を持つ漫画家・谷口ジロー(1947-2017)の作品世界を、貴重な自筆原画など約200点でご紹介する大規模個展です。

緻密な作画、構成によって描き出されるその作品は、谷口ならではの世界、時空間に読者を惹きこむ力に満ち、深い読後感を残すことでも知られています。海外では大人の読者に堪える芸術として高い評価を受け、フランスのルーヴル美術館からもオリジナル作品を委嘱されています。

世界で認められる日本のマンガ文化の中でも、その成熟を象徴する存在として挙げられる谷口ジロー作品の魅力は是非ご堪能ください。

- 【展覧会名】 描くひと 谷口ジロー展
【会 期】 2021年10月16日(土)～2022年2月27日(日) 混雑時入場制限あり
ご来館の際は、事前に当館ホームページにて最新情報をご確認ください
【会 場】 世田谷文学館 2階展示室
東京都世田谷区南烏山1-10-10 Tel 03(5374)9111 <https://www.setabun.or.jp/>
【開館時間】 10:00～18:00 (展覧会入場、ミュージアムショップの営業は17:30まで)
【料 金】 一般 900 (720) 円 / 65歳以上・大学・高校生 600 (480) 円 /
小・中学生 300 (240) 円 / 障害者手帳をお持ちの方 400 (320) 円 (但、大学生以下は無料)
※ () 内は団体割引と「せたがやアーツカード」割引料金
※10月22日(金)は65歳以上無料
【休 館 日】 毎週月曜日 (但、月曜が祝日の場合は開館し、翌平日に休館) ・臨時休館期間
・年末年始 (2021年12月29日～2022年1月3日)
【交通案内】 京王線「芦花公園」駅南口より徒歩5分
小田急線「千歳船橋」駅より京王バス (千歳烏山駅行) 利用、「芦花恒春園」下車徒歩5分
【主 催】 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館
【特別協力】 株式会社ふらり、一般財団法人パピエ
【企画協力】 株式会社小学館集英社プロダクション
【協 賛】 株式会社ウテナ、東邦ホールディングス株式会社
【後 援】 世田谷区、世田谷区教育委員会

【ご来館にあたってのお願い】

お客様に安心してご鑑賞いただくため、世田谷文学館は施設の換気や消毒、スタッフ全員の検温など感染症予防対策に取り組み開館しています。

- 感染症対策のため、**混雑時は入場を制限**させていただきます。
- 37.5℃以上の発熱がある方は入館をお断りします (入館時に検温させていただきます)。
- ご入場の際はマスクをご着用ください。
- 過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある場合は、来館をお控えください。
- 咳、咽頭痛等、風邪のような症状がある方、体調がすぐれない方はご来館をお控えください。
- 感染症対策のため、お客様の個人情報を必要に応じて保健所等の公的機関に提供する場合がございます。
- クロークサービスはありません。大きなお荷物でのご入場はご遠慮ください (ベビーカー置き場はあり)。
- 駐車場は利用台数が限られます。公共交通機関のご利用をお願いいたします。
- その他、注意事項の追加・更新がございますのでご来館前に必ず文学館HPをご確認ください

推薦文

谷口ジローの温顔と、その下に隠された静かな闘志は終生変わらなかった。自分の才能を磨く努力を怠らず、あらたな挑戦を恐れなかった彼は、マンガ家という天職を生ききった。

関川夏央（作家／『事件屋稼業』『「坊っちゃん」の時代』ほか共作者）

谷口先生に初めてお会いしたとき、まるで妖精のようなこんな素敵な人がいるのかと感動した憶えがある。お会いするたび、いたずらっ子のようなきれいなまん丸い瞳をくるくるさせて、とても気さくにいろいろな話をしてくれた。

先生はきっと今も、天国で楽しそうに大好きな漫画を描き続けているのではないかと、時々 きらきらした丸い瞳を思い出しています。

松本大洋（漫画家）

だからいったでしょ、谷口ジローはもっともっと評価されなきゃいけないんだって！ 日本の漫画家としてじゃなくて、世界の大人向け作家としてね。

夏目房之介（漫画批評家）

谷口さんの絵はリアリティーの中に気品がそそり立っていて、そこに実写で立ち向かうにはかなりの覚悟が要りました。細部に至るまで手が抜けない作業を自らに課すことになったのは、良い意味で谷口さんの呪縛に他なりません。

松重豊（俳優／テレビドラマ『孤独のグルメ』主演）

谷口ジローの凄いところは、これだけ優れた描き手であるのに、その死後、いまだにその追従者があられないということだ。模倣者すらあられない。だから、谷口ジローの座っていた椅子は、そのまま、空いたままだ。それでいい。

夢枕獏（作家／漫画版『餓狼伝』・漫画版『神々の山嶺』原作者）

まっすぐな瞳の佇まいが印象的でした。

先生は初対面の僕のような若手にも目を逸らさずじっくりと話を聞いて下さいました。

跳ねる光や葉の重なる音、激しい息遣いと鼓動まで伝わってくるような谷口作品の細やかな筆致の理由を見た様な思いがしました。いつまでも追いつけない、憧れの先生です。

坂本眞一（漫画家）

谷口ジローは、産業としてのマンガに付き物のさまざまな制約や約束から少しずつ解放され、日本のマンガと世界のマンガの間を自由に行き来するようになりました。そうした作家は何人かいますが、彼はその中でも主だったひとりです。しかし、何より重要なのは、彼が現代において、最も普遍的で、読者の心を強く揺さぶる作品を生み出した作者だということです。

ブノワ・ペーターズ（漫画原作者、小説家、批評家）

谷口ジローさんはとにかく丁寧な人で、新人編集者である僕の考えをいつも丁寧に聞いてくれていました。谷口さんの丁寧さや誠実さはマンガのストーリーだけでなく絵にも表れていて、僕はそれが好きです。マンガを読み直す度に、谷口さんの人柄のことを思い出します。

佐渡島庸平（編集者・経営者／株式会社コルク代表）

トピックス

著者初の本格選集「谷口ジローコレクション」の刊行

谷口ジローの代表作を、雑誌初出時と同じB5サイズで刊行するプロジェクト「谷口ジローコレクション」（第I期全10巻／小学館・双葉社共同出版）が始動。

10月28日より、5か月にわたって毎月2冊ずつ刊行される。世田谷文学館では、第1回配本の『父の暦』と『「坊っちゃん」の時代』第1部を、10月16日より先行販売する。

- アニメ『神々の山嶺』が、カンヌ映画祭で上映後（2021年7月10日 コンペティション外）、9月からフランスで上映予定。 <https://www.festival-cannes.com/fr/infos-communiqués/communiqué/articles/le-cinéma-de-la-plage-2021>

- 漫画『K』が、ヤマケイ文庫（2021年7月 山と溪谷社）より復刻。

<https://www.yamakei.co.jp/products/2821049170.html>

PRESS RELEASE SETABUN

描くひと 谷口ジロー展

2021/9/8 世田谷文学館プレスリリース

展示構成

漫画家・谷口ジローの作品世界を6つの章でご紹介します。

プロローグ・深化しつづけた谷口ジロー漫画の軌跡

1970年代から2010年代の代表作を一堂に展示。谷口作品の全貌をご覧ください。

第1章 漫画家への道のり

谷口は高校卒業後から本格的に漫画を描き始め、1967年20歳の時に会社を退職しプロを目指して上京。動物漫画で知られる石川球太のアシスタントとなり漫画技術を学んだ。70年に『声にならない鳥のうた』を発表後、72年「昭和の絵師」とよばれた上村一夫のアシスタントとなり劇画の腕を磨いた。独立後、『学習漫画 シートン動物記』全12巻（74年 集英社）のうち、『狼王ロボ』など4巻の作画を担当するなど、デビュー当初から動物を描くことも得意とした。

展示資料：『声にならない鳥のうた』、初期絵本など

第2章・70年代～80年代 時代の空気を描く劇画

1977年、関川夏央との最初の共作『跳べ!! 暗殺犬』を発表。原作のセリフを一切変えないというスタイルと、劇画調の強い線と力感ある画は、関川との共作『事件屋稼業』後も続いた。一方、70年代半ばにフランスコミックのBD作家・メビウスの絵からも影響を受け、81年の矢作俊彦『マンハッタン・オブ』の装画ではコントラストの強いスタイリッシュな絵柄でNYが舞台のハードボイルドを描き出す。後の作品とは線も画作りも大きく異なる、迫力あるこの時代の谷口劇画には今なお熱烈なファンは多い。

展示資料：『事件屋稼業』、『青の戦士』、『マンハッタン・オブ』など

第3章・80年代 オリジナルと共作と 広がる自然観・世界観

1982年、初の長篇オリジナル作品『ブランカ』を連載。本作では、遺伝子操作のうえ特殊訓練を施された犬・ブランカが、飼い主の元に帰還するまでを描いている。苛酷な荒野や山岳という舞台、凄まじい戦闘シーン、躍動する犬たちなど、谷口が劇画づくりの中で培った画力が披露された。『地球氷解事紀』(87年連載開始)の「人類と自然の進化」というテーマ（同著あとがき）と同様、本作では人間と動物の深い絆、身勝手な人間社会が作り出した災厄の顛末といった、その後のオリジナル作品に繋がるモチーフが取り上げられた。

原作者との共作では、山岳漫画『K』（原作：遠崎史朗）での急峻な山岳地帯の描写、岩壁登攀場面の迫力と緊迫感が自然に挑む人間への容赦ない厳しさを伝え、後の『神々の山嶺』とともに高い人気と評価を得ている。

展示資料：『ブランカ』、『地球氷解事紀』、『ENEMIGO』など

第4章 90年代 谷口漫画の転換点 独自の世界へ

90年代に入ると、誰にでもある日常の小さな出来事を深く観察し、そのエピソードを掘り上げるという商業漫画では稀なテーマに対する新しい独自の漫画表現が編み出される。『歩くひと』（90～91年連載）は毎回1話完結の物語で、次第にセリフが減り遂に全くセリフの無い回も登場する異色の作品。しかし、主人公が歩きながら受ける感覚や感情の動きは、洗練された画と構成の力で存分に伝わり、さらに想像の余地もある爽やかな読後感を残す谷口漫画の頂点の一つと言える。時代を描く大作『「坊っちゃん」の時代』5部作と並行しながら、谷口漫画の転換期を伝える名品が数多く生み出された。

老犬の看取りと喪失感、その後に保護猫との新たな暮らしに至る飼い主の日々と心情を描いた91～92年の『犬を飼う』、『そして…猫を飼う』は、自らの体験に裏打ちされており、愛する存在との別れを体験した全ての人の共感を誘う。『父の暦』（94年）、『遙かな町へ』（98年）では、故郷と東京、少年時代と今の自分、父親や懐かしい人々への思いが交錯する回想やタイムスリップの中で描かれる。青少年期を過ごした鳥取の風景や生活描写のリアリティが物語の普遍性を高め、海外でも評価が高い。

原作ものの『櫻の木』に代表される「人びとシリーズ」（原作：内海隆一郎）、実写版でも反響を呼ぶ『孤独のグルメ』（原作：久住昌之）でも、日常のひとこまが画によるキャラクター造形と細密な日常描写によって一つの物語として浮き上がる妙味を満喫させてくれる。

展示資料：『歩くひと』、『犬を飼う』、『櫻の木』、『孤独のグルメ』など

第5章 2000年代 高まる評価、深化する表現

『歩くひと』のフランス語訳（95年）から欧米に谷口作品が知られることで、谷口漫画の内外での評価が始まる。『父の暦』は、2001年にフランスのアングレーム国際漫画祭で受賞し、翌年にはスペインで3つの賞を受賞。『遙かな町へ』も文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞（日本・99年）を受けた後、各国で賞を受賞する。こうした評価の流れは、メビウスの原作による『イカル』の制作、09年には日本人作家初のBD『mon année』の刊行へと繋がってゆく。2000年代にも長篇『神々の山嶺』（原作：夢枕獯）で、エレベーター初登攀の謎を得意な山岳風景と岩壁登攀の描写を交え大きなスケールで描き、国内外の賞を受けた。一方、川上弘美の人気小説『センセイの鞆』を漫画化し、原作者も感心する程のリアリティで新たな魅力を生むなど、原作ものでも表現を深化させてゆく。

展示資料：『父の暦』、『センセイの鞆』、『遙かな町へ』、『神々の山嶺』など

第6章 2010年代 さらに新たな表現へ

海外の評価が定まるなかでも、谷口は新たな表現世界へと歩んでゆく。伊能忠敬を主人公にした『ふらり。』（11年）の画は、浮世絵の一枚絵の表現や視覚を採り入れ、江戸の情景や風情を丁寧に描写しつつ、ミクロからマクロまで360度自在な視野によるダイナミックな画を通じて好奇心と想像力の広がりをも伝える漫画ならではの表現力を堪能できるオリジナル作品。

小泉八雲『怪談』がモチーフの『何処にか』（16）は、八雲の日本への深い思いの中で『怪談』で語られる異界の綺談が融合してゆく。『ふらり。』とはまた異なるファンタジックな作品で、『ふらり。』の江戸、『「坊っちゃん」の時代』の明治の描写で培われた、「時代への描写力」が活かされている。

展示資料：『ふらり。』、『何処にか』など

エピローグ 漫画に出来ないものはない 最期まで描くひととして

2017年2月、谷口は不帰の客となる。5章のうち1章まで描かれた『光年の森』は、『VENICE』で試みられた水彩による瑞々しい作画で目に鮮やかな緑の森が描かれている。初期から自然、動物と人の関わりを描き、「風景が持つ感情がある」と風景を単なる背景ではなく、感情を語らせたいと語った谷口が更に目指した境地の一つが示されている。同じく未完の作となった『いざなうもの 花火』は内田百閒の短篇集『冥途』の中の「花火」を原作にした作品。百閒の作品世界を漫画の中で再構築するにあたって、磨き上げたスクリーントーン使いによる写実的陰影や立体感の表現を置き、擦筆と薄墨による新たな画作りへという挑戦の跡が残されている。

「漫画に出来ないものはない」と口にしてきたという谷口ジローは、あらゆる題材を描くことでその技術を磨き、漫画独自の表現を模索した。彼は生涯、「描くひと」であり続けた。

展示資料：『光年の森』、『いざなうもの 花火』など

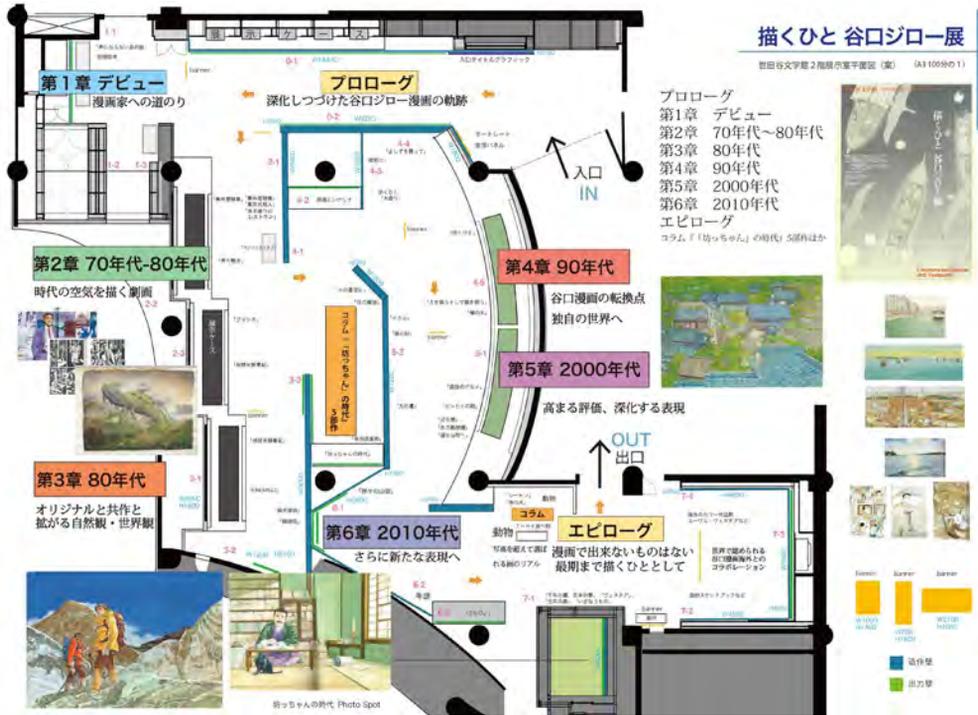
その他『「坊っちゃん」の時代』5部作を紹介するなど、多数の特設コーナーを設置します

PRESS RELEASE SETABUN

描くひと 谷口ジロー展

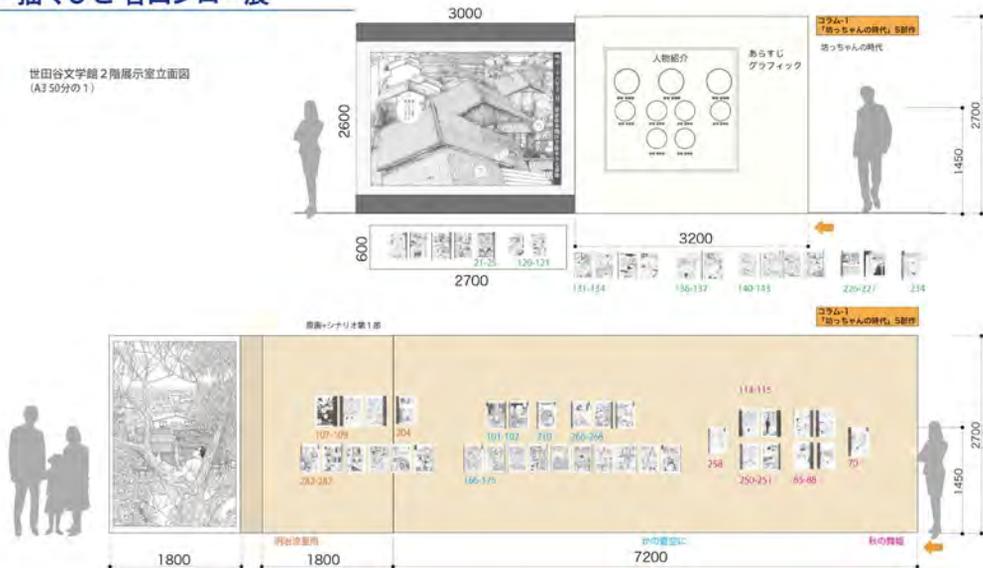
2021/9/8 世田谷文学館プレスリリース

展示空間イメージ 描くひと 谷口ジロー展



描くひと 谷口ジロー展

世田谷文学館2階展示室立面図
(A3 50分の1)



展示空間イメージ 上・会場平面図 (案) 下・立面図 (案)

PRESS RELEASE SETABUN

描くひと 谷口ジロー展

2021/9/8 世田谷文学館プレスリリース

広報写真



画像1 「坊っちゃん」の時代 ©PAPIER



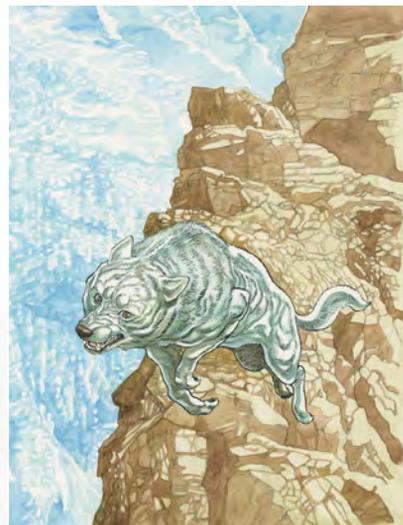
画像2 Photo © Isabelle Franciosa



画像3 神々の山嶺 ©PAPIER



画像4 ふらり。 ©PAPIER



画像5 ブランカ ©PAPIER



画像6 『「坊っちゃん」の時代』第五部『不機嫌亭漱石』双葉社刊 ©PAPIER

プロフィール

【谷口ジロー（1947～2017）】アシスタント生活を経て1975年『遠い声』で第14回ビッグコミック賞佳作を受賞。以降、『犬を飼う』（第37回小学館漫画賞審査委員特別賞・1992）、『「坊っちゃん」の時代』（第22回日本漫画家協会賞優秀賞・1993、第2回手塚治虫文化賞マンガ大賞・1998）、『遙かな町へ』（第3回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞・1999）、『父の暦』（アングレーム国際漫画フェスティバル審査員賞・2001）、『神々の山嶺』（第5回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞・2001）など数々の賞を受賞。2011年、フランス芸術文化勲章シュヴァリエ章を受章し、ルーヴル美術館やレイ・ヴィトン等との企画を手がけた。近年では『孤独のグルメ』（2012）、『事件屋稼業』（2013）、『歩くひと』（2020）のテレビドラマ化とともに、海外では『遙かな町へ』（ドイツ・ベルギー・フランス・ルクセンブルク 2010）の映画化、『晴れゆく空』（フランス 2017）のテレビドラマ化、『神々の山嶺』（フランス・ルクセンブルク 2021）のアニメ化など、国内外問わず多数の映像化作品が公開されている。

PRESS RELEASE SETABUN



世田谷文学館 外観写真

概要 世田谷文学館開館25周年記念 セタブン大コレクション展 PART I

ふかくこの生を愛すべし

文学館が収集する資料は多岐にわたります。作家の自筆原稿や創作ノートや手紙、書書類から書籍や雑誌はもとより、ときには1枚の写真や新聞切抜、あるいはお菓子の空き箱や石ころのようなものまで資料として集めることもあります。それらの「モノ」たちの背景には、彼らが創作に携わった日々の想いや、家族や友人たちとの関係、社会や時代とのかかわり、気分転換の方法、そして生老病死と、さまざまなエピソードや歴史が秘められています。

世田谷文学館は昨年開館25周年を迎えました。この間収集した10万余点の資料の中から特色あるコレクションを「セタブン大コレクション展」として2シーズンにわたってご紹介してまいります。文学史上貴重な創作資料から作家の日常使いの品まで、コレクションが持つひとつひとつの「モノ」語りをひもとき、私たちの人生の諸相を映し出す確かな記録としてお届けいたします。

【展覧会名】 セタブン大コレクション展 PART I ふかくこの生を愛すべし

【会 期】 2021年10月16日(土)～2022年3月31日(木) 混雑時入場制限あり

ご来館の際は、事前に当館ホームページにて最新情報をご確認ください

【会 場】 世田谷文学館 1階展示室

東京都世田谷区南烏山1-10-10 TEL 03(5374)9111 <https://www.setabun.or.jp/>

【開館時間】 10:00～18:00 (展覧会入場、ミュージアムショップの営業は17:30まで)

【料 金】 一般 200 (160) 円 / 65歳以上・大学・高校生 150 (120) 円 /

小・中学生 100 (80) 円 / 障害者手帳をお持ちの方 100 (80) 円 (但、大学生以下は無料)

※企画展チケットで無料にてご覧いただけます

※()内は団体割引と「せたがやアーツカード」割引料金

※10月22日(金)は65歳以上無料

【休 館 日】 毎週月曜日 (但、月曜が祝日の場合は開館し、翌平日に休館) ・臨時休館期間

・年末年始 (2021年12月29日～2022年1月3日)

【交通案内】 京王線「芦花公園」駅南口より徒歩5分

小田急線「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)利用、「芦花恒春園」下車徒歩5分

【主 催】 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館

【後 援】 世田谷区、世田谷区教育委員会

【ご来館にあたってのお願い】

お客様に安心してご鑑賞いただくため、世田谷文学館は施設の換気や消毒、スタッフ全員の検温など感染症予防対策に取り組み開館しています。

●感染症対策のため、**混雑時は入場を制限**させていただきます。

●37.5℃以上の発熱がある方は入館をお断りします
(入館時に検温させていただきます)。

●ご入場の際はマスクをご着用ください。

●過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある場合は、来館をお控えください。

●咳、咽頭痛等、風邪のような症状がある方、体調がすぐれない方はご来館をお控えください。

●感染症対策のため、お客様の個人情報を必要に応じて保健所等の公的機関に提供する場合がございます。

●クロークサービスはありません。大きなお荷物でのご入場はご遠慮ください
(ベビーカー置き場はあり)。

●駐車場は利用台数が限られます。公共交通機関のご利用をお願いいたします。

●その他、注意事項の追加・更新がございますのでご来館前に必ず文学館HPをご確認ください



コレクション展 メインビジュアル

描くひと 谷口ジロー展 広報用画像借用書

世田谷文学館学芸部 広報担当 行

Eメール webmaster@setabun.net FAX 03-5374-9120

展覧会広報用の画像をご用意しています。ご希望の際は下記利用条件をご確認のうえ、本紙データをファックスまたはEメールにてご提出ください。なお、本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、校正紙をお送りいただきたく存じます。また、発行後、掲載誌を1部お送りください。

【広報用画像利用条件】

- ◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
- ◆画像データは、ご使用后必ず消去してください。また画像データを第三者に渡すことを禁じます。
- ◆インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後はWEBサイトから必ず削除してください。

雑誌名・番組名・WEBサイト名： _____

媒体種別（○印記載）：新聞 ・ 雑誌 ・ フリーペーパー ・ テレビ ・ ラジオ ・ WEBサイト

情報配信予定日： _____ 年 _____ 月 _____ 日（○印記載 発売・配信・その他 _____）

御社名： _____

御担当者名： _____

御住所： _____

メールアドレス： _____

電話番号： _____ FAX番号： _____

【画像利用の申請について】

利用希望の画像については、下記にチェック（レ）して申請してください。
赤字箇所はクレジット表記です

- | | | | |
|------|--------------------------|------------------------------|----------|
| 画像 1 | <input type="checkbox"/> | 「坊っちゃん」の時代 | ◎ PAPIER |
| 画像 2 | <input type="checkbox"/> | ◎ Isabelle Franciosa | |
| 画像 3 | <input type="checkbox"/> | 神々の山嶺 | ◎ PAPIER |
| 画像 4 | <input type="checkbox"/> | ふらり。 | ◎ PAPIER |
| 画像 5 | <input type="checkbox"/> | ブランカ | ◎ PAPIER |
| 画像 6 | <input type="checkbox"/> | 『「坊っちゃん」の時代』第五部 『不機嫌亭漱石』双葉社刊 | ◎ PAPIER |

コピーガードができない場合は、表紙のメインビジュアル、外観写真をご利用ください。

- 企画展 メインビジュアル（表紙）
- 外観写真
- コレクション展 メインビジュアル